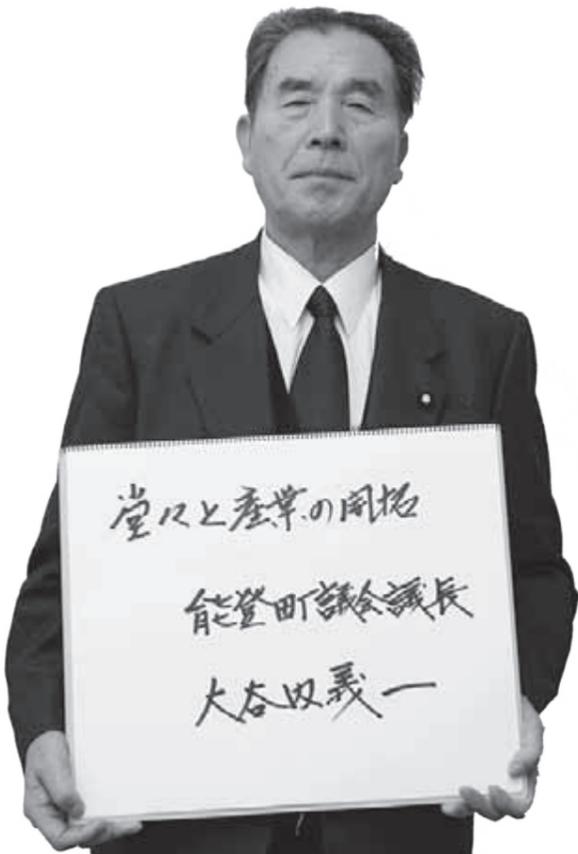


平成18年 両成

ひのえいぬ



新年明けましておめでとうございます。昨年、国から与えられた夢、町村合併をいたしました。今年は、自分たちで創った夢を実現する年にしたいです。新生能登町には多くの課題が山積しています。そのうち一番重要と考えられる問題は人口の減少です。若者が定住しなくて流出が続き、そのうえ少子化が進む、これが人口減少の最大の要因であります。若者が定住しない原因は諸々ありますが、その要因は仕事がない、また若者が求めている環境施設などの不足も考えられます。そして若い夫婦の少子化思想があるのかなとも考えられます。それでは解決策はあるのかないのか。わたしは解決策はあると思っています。日本全国の町村をみると町村を活性化し、産業を興して人口減少に歯止めをかけている例は数多くあります。卓越した指導者によるもの、また住民と行政が一体となって意欲的

能登町議会議長 大谷内義一

平成十八年元旦

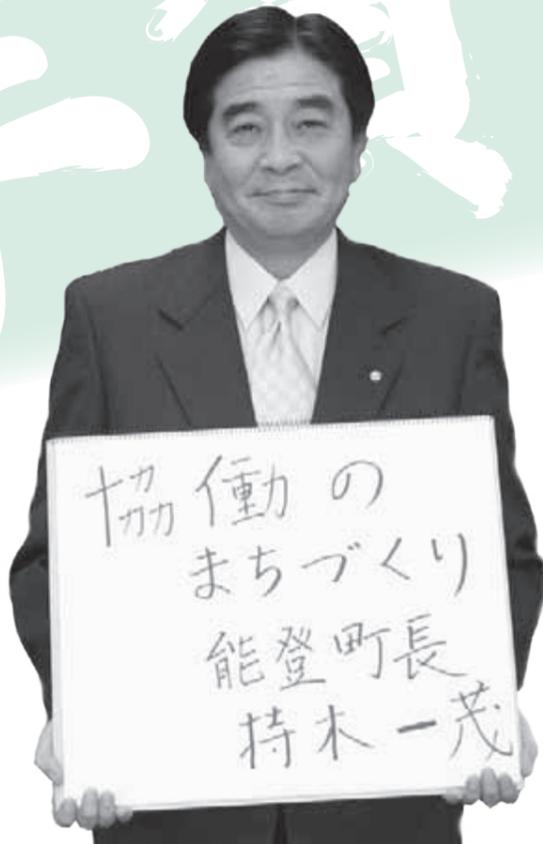
新年明けましておめでとうございます。

昨年、国から与えられた夢、町村合併をいたしました。今年は、自分たちで創った夢を実現する年にしたいです。新生能登町には多くの課題が山積しています。そのうち一番重要と考えられる問題は人口の減少です。若者が定住しなくて流出が続き、そのうえ少子化が進む、これが人口減少の最大の要因であります。若者が定住しない原因は諸々ありますが、その要因は仕事がない、また若者が求めている環境施設などの不足も考えられます。そして若い夫婦の少子化思想があるのかなとも考えられます。それでは解決策はあるのかないのか。わたしは解決策はあると思っています。日本全国の町村をみると町村を活性化し、産業を興して人口減少に歯止めをかけている例は数多くあります。卓越した指導者によるもの、また住民と行政が一体となって意欲的

能登町長 持木一茂

平成十八年元旦

謹賀新年



新年明けましておめでとうございます。能登町になっての初めての新年を皆さんとともに迎えることができ、大変うれしく思っています。昨年3月に能登町が誕生してから10カ月が過ぎました。この間、町民の皆さんをはじめ、関係各位のご協力によりスムーズな町政運営が出来ましたことに心から感謝申し上げます。

今年は、新町のまちづくりのテーマである「奥能登にひと・くらしが輝くふれあいのまち」づくりを着実に進めて行くために、一刻も早く能登町の一体性の確保を図ることが重要であります。その第一歩として、昨年は、皆さんのご意見をたくさんお聞きし、町の計画に反映していきたいとの想いから、「能登町の未来を語る会」を開催し、多くの方々からご意見をいただきました。そのご意見を「能登町総合計画」の策定に活かし、今後の町政の運営に役立てて参りたいと考えております。

本年が、町民の皆さまにとって、健やかで、明るい年となりますようご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

平成十八年元旦

に努力しているところなど代表される例は全国にあります。

新生能登町にも新しい文化「産業」も芽生えています。これらを全町民の力で、ダイナミックに育てていかなければなりません。

知恵と努力は人間に与えられた最高の喜びだと思います。わたしの座右の銘は「堂々と」です。新年は堂々と町勢発展を目指し、産業の開拓に町民の皆さまとともに努力する事をお誓いいたします。

平成十八年元旦

能登町議会議長 大谷内義一

情報格差の是正を図ること、県内唯一の海洋深層水の商品開発など町民と行政が一体となった「協働のまちづくり」にも力を注ぎたいと考えております。

能登町が持つ豊かな財産は、全国に誇れるものがあり、具体的には、新鮮な魚、海洋深層水、ブルーベリー、縄文真協遺跡、九十九湾、あばれ祭り、ござれ祭り、能登村氏など数えればきりがありません。

依然として厳しい財政事情ではありますが、地域住民のニーズに応えられる「行財政基盤の確立」と豊かな財産の活用を積極的に行い、「能登町の未来の礎を築く」年となるよう、全力で取り組む所存であります。

本年が、町民の皆さまにとって、健やかで、明るい年となりますようご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

平成十八年元旦

指定管理者制度とは・・

地方自治法の改正により、これまで町や町が2分の1以上出資する法人に限定されていた公の施設の管理方法を平成18年9月までに「指定管理者制度」に変更することになりました。

これにより、町が直接管理する方法以外は、議会の議決を経て民間会社を含む「指定管理者」から選定することになります。今回町では該当となる町有施設を規定する条例30件について一括して改正を行いました。

議 会

第4回 定例会

一般会計で
1億1,625万8千円追加

第4回能登町議会定例会は、12月13日に招集されました。会期を19日までの7日間とし、一般会計補正予算や「指定管理者制度」導入に伴う条例改正案など町長提出議案23件が上程されました。19日の採決では、第3回定例会からの継続審査となっていた平成16年度の決算認定41件を承認し、町長提出議案23件は原案のとおり可決されました。また請願1件、陳情2件が採択となりました。



◆可決された町長提出議案

- 平成17年度能登町一般会計補正予算（第3号）
歳入歳出それぞれ1億1,625万8千円を追加し、総額を166億1,088万1千円とする
- 平成17年度能登町有線放送事業特別会計補正予算（第1号）
歳入歳出それぞれ4,465万5千円を減額し、総額を3億6,001万6千円とする
- 平成17年度能登町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）
保険事業勘定の歳入歳出それぞれ5,184万1千円を追加し、総額を26億2,736万1千円とする
- 平成17年度能登町介護保険特別会計補正予算（第2号）
保険事業勘定の歳入歳出それぞれ590万8千円を追加し、総額を22億6,182万3千円とする
- 平成17年度能登町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）
歳入歳出それぞれ2,417万7千円を減額し、総額を12億2,123万8千円とする
- 平成17年度能登町農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）
歳入歳出それぞれ3,206万7千円を追加し、総額を5億7,695万7千円とする
- 平成17年度能登町浄化槽整備推進事業特別会計補正予算（第1号）
歳入歳出それぞれ395万2千円を追加し、総額を3,673万2千円とする
- 平成17年度能登町水道事業会計補正予算（第3号）
- 平成17年度能登町病院事業会計補正予算（第2号）
- 能登町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例について
- 能登町情報ネットワークセンター条例の一部を改正する条例について
小木地区の有線テレビ業務開始にむけて区域や料金などを定める

請願と陳情の採択を受けて、地産地消自治体宣言の決議など議会提出議案3件が上程され、原案のとおり可決されました。

◆採択された請願
○高金利引き下げに関する請願

◆採択された陳情
○「非核・平和能登町宣言」採択の陳情
○地域農林水産業活性化を図るための「地産地消自治体宣言」を求める陳情

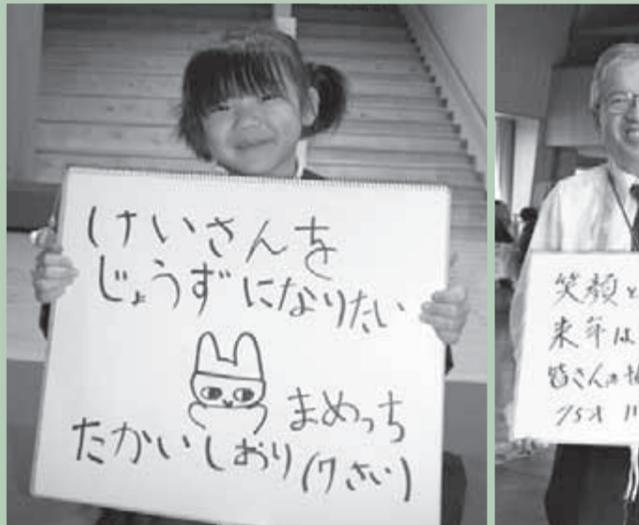
- 能登町地区集会所等条例の一部を改正する条例について
宮犬地区生活改善センターを条例に追加する
- 職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について
石川県、富山県、福井県の出張における日当を廃止する
- 能登町水道事業給水条例の一部を改正する条例について
時長地区を上水道給水区域に含める
- 公の施設に係る指定管理者制度の導入等に伴う関係条例の整備に関する条例について
該当となる町有施設を規定する条例30件について一括して改正
- 証明書等の交付に係る事務の委託に関する規約の変更について
- 石川各市町村職員退職手当組規約の変更について
- 石川各市町村議会議員公務災害補償組規約の変更について
- 石川各市町村消防団員等公務災害補償等組規約の変更について
- 石川各市町村消防賞じゅつ金組規約の変更について
- 奥能登広域圏事務組合を組織する地方公共団体の数の増減（廃置分合）に伴う奥能登広域圏事務組合規約の変更について
- のと鉄道運営助成基金事務組合を組織する地方公共団体の数の増減（廃置分合）について
- 「能登町公共下水道根幹的施設の建設工事委託に関する協定の締結について」の議決の一部変更について

◆可決された議会提出議案

- 高金利引き下げに関する意見書の提出について
- 非核・平和能登町宣言の決議について
- 地産地消自治体宣言の決議について



2006年あなたの目標は。





「お迎えにあがりました」
鍬を3回打って、田んぼから田の神様を迎える



「おまつなお風呂でございました」
田の神様の入浴のあと、御膳の場所に案内する

奥能登だけに伝わる「アエノコト」

農村の守護霊・田の神様

奥能登の農村で信仰されている田の神様は、稲作だけでなく、夫婦の神、山の神、家の神を習合しており、また畑作も守っている。また、田の神様は夫婦で、「昼夜の別なく泥田の中で田を守り続け、疲れのために失明した」とも「稲穂で目を傷つけられて片目になった」ともいわれ、目が不自由だと信じられている。

暮れのアエノコト：12月5日

奥能登の農家では、12月5日に田の神様を田んぼから家へ迎え、ごちそうでもてなす祭り「田の神迎え」の神事が伝承されている。アエノコトは、農耕に従事してきた国民の基礎的生活の特色を典型的に示す事例として昭和51年に国の重要無形民俗文化財に指定された。

アエノコトの「アエ」は饗応(あて)

(あて)を意味し、「コト」は「事」とも書かれ、家庭の祭りを意味する。古くから各家庭に伝わる祭事のため形式は一定しておらず、ゴテ(世帯主)の采配で神事が行われる。一般的には、正装した主人が、目の不自由な夫婦神の田の神様の手を取り、入浴をすすめ、座敷に案内し、ごちそうを一品一品説明する。

座敷では、種初儀が大黒積みされ、

御膳が2膳用意される。御膳はハチメカ鯛のお頭付きで、煮しめ、赤飯、甘酒を添える。赤飯と甘酒は田の神様の好物だといわれている。

田の神様を家へ迎えた主人は、「田の神様どうぞお風呂が沸きましたからお入りください」と風呂へ案内する。しばらくして「どうぞごちそうを用意してありますからおあがりください」と風呂場から御膳の所へ案内する。この日から2月9日まで、田の神様は家の中で家族と過ごし寒い冬を越す。

春のアエノコト：2月9日

2月9日の「田の神送り」の神事は、迎えの行事より簡略される。饗応し鏡餅と松飾り、清めた鍬を持って田んぼへ行く。田んぼでは鍬を3回打って「田打ち」初めをする。鏡餅は雑煮にしていた。

伝承していきたい奥能登の魂

豊作を祈る祈念祭としての春のアエノコト。収穫を祝う新嘗祭としての暮れのアエノコト。神に感謝し、神をもてなす気持ちの強い奥能登だけに伝わるこの「アエノコト」神事は奥能登の大切な宝物のひとつである。過疎化、農業の近代化の中で後継者は減っているが、伝え残していきたい大切な伝統行事である。



「ごゆっくりお召上がりください」
夫婦神である田の神様を御膳に近づけ饗応する



「赤飯がでございます。刺身はブリでございます」
目の不自由な田の神様に一品一品説明をする

田の神様のおかげで本年も豊作でした
どうぞごゆっくりお召上がりください



※アエノコトは行う家によってそれぞれ違ってきます。
写真は12月5日に植物公園内の合鹿庵で行われたアエノコト神事の模様です。【執行者：田中 登さん(小間生)】

554人から377件の提言

能登町の未来を語る会を開催しました！



能登町では現在、計画期間を10年間とする「能登町総合計画」の策定に向けて取り組んでいます。

計画づくりに町民のみなさんのアイデアを活かすため、7月から10月にかけて、町内16カ所の会場で「能登町の未来を語る会」を開催し、554の方が参加されました。各会場では、能登町の今後のまちづくりに関するアイデアや各地域の問題点などについて町長と語り合い、町民のみなさんから延べ377件のご意見をいただきました。

〈多くのご意見が寄せられた項目〉

項目	件数	主な内容
道路整備の推進	38	幹線道路網整備、道路舗装、安全対策、道路案内、道路管理
行政運営の効率化	35	行政サービス・職員の対応の向上、新庁舎建設、庁舎の利便性の向上
農林水産業の振興	26	第1次産業の強化、地産地消、特産品開発、基盤整備
広報・公聴の充実	17	審議会などへの若手の登用、未来を語る会の継続開催、若者の参加
コミュニティ活動の推進	16	公民館活動の推進、公民館の運営（職員体制、休館日）
公共交通の充実	16	路線バス・スクールバスの利便性向上、広域公共交通網の充実
町土の保全	16	消波ブロック・防波堤などの維持管理、ダムを活用、災害復旧
廃校舎の活用	15	コミュニティ施設・スポーツ施設・宿泊施設などへの活用
財政運営の効率化	14	人件費の削減、就業の場としての職員数の確保
観光の振興	14	奥能登地域の連携、体験・滞在型観光の強化、農業・漁業との連携
新規産業の創出、産業連携の促進	13	企業誘致、起業支援、既存企業支援、海洋深層水の農漁業への活用
情報通信基盤の充実	12	有線テレビ番組の充実、情報通信網の活用
学校教育の充実	12	小中学校の統合、スクールバスの充実・通学支援
交流活動の推進	11	交流イベントの開催、交流人口の拡大
住民参画の推進	11	ボランティア活動の支援（道路維持管理、清掃活動、高齢者サポート）
高齢者福祉の向上	11	公共施設・公民館のバリアフリー化、高齢者サポートボランティア
防災・救急体制の強化	11	適正な避難場所指定、地震・火災情報の提供、防風ネットの整備
定住の促進	10	宅地造成、定年退職者の移住受け入れ、空家活用

※ご意見は「能登町まちづくり計画」の施策分類を参考に分類しています

※能登町の未来を語る会でお寄せいただいたご意見は、庁内の総合計画策定委員会で検討して総合計画に反映していきます。また、お問い合わせやご要望については、関係課で対応を検討していきます。

〈お問い合わせ〉企画財政課

審議会委員紹介③



紙谷靖博
(能登町社会福祉協議会)
能登町もご多分に漏れず少子高齢化と過疎化が進んでいますが、環境の恵まれたわが町の良さに気づき安心して子どもを産み育てられ、高齢者の方々も楽しく安全な老後が送れるような町になればと思っています。

住んで良かったといえるような町づくりに協力ができよう努めたいと考えております。



新出二三恵
(能登町婦人団体協議会)
私たちの能登町は、著しく過疎化をたどり、少子高齢化などの多くの問題を抱えています。

地域の人たちが何を求め、どのような地域にしたいのかを考え、実現できるような運動をしていかなければなりません。そのためにも私は、女性が安心して子育てでき、安定した家庭を築けるような地域づくりを展開していきたいと思っています。

能登町めぐり Vol.8



ボクには弟がいるんだよ！

■開館時間 午前9時15分～午後5時30分
(10月～3月は午後5時で閉館)

■休館日 月曜日 第3日曜日
年末年始 12/28～1/4

■住所 宇出津タ-46-1

■問い合わせ ☎・FAX 62-1503



平成13年12月1日にオープン、「ノーム」の愛称で親しまれていることもみらいセンターを紹介するよ！旧こぼと保育所が生まれ変わって誕生したこの施設。児童館として小さな赤ちゃんから、小中高校生、子育て中のお母さんたちなど、たくさんの人たちが利用しているんだよ。5人の先生方がいて、毎月楽しい行事が行われているよ！



上手だねえ！

「ノーム」ってヨーロッパの森の妖精なんだって！



この日は、毎月1回開かれる子育て支援ルームの日で、クリスマスグッズ作りが行われていたよ。まだ小さい赤ちゃんたちは施設の先生が面倒を見てくれるから安心だよ。ほかにダンスやクッキングなど、少しだけ子どもたちとはなれた時間でも、いろいろな体験ができて、お母さんたちがリラックスできるんだよ！

みらいセンターには年齢に応じた楽しい遊具がいっぱいあるよ！絵本の部屋もあるし、元気に遊べるプレイヤーム、パソコンが使える創造の部屋や料理の部屋もあるんだ！ここは学童保育事業もやっているから、先生たちが働くお父さん、お母さんの代わりになってくれるよ。お母さんから3年生までの児童を預かってくれるから先生に相談してね！



この青虫くんの中をくぐると2階まで行けるよ！



みらいセンター所長 山辺 照子さん

Qみらいセンターのいいところは？

町の中にあるので利用しやすいところですね。人と話すことが少し苦手な子どもたちでも、ここに来ると自分の居場所を見つけたように明るい表情を見せてくれる瞬間があるんです。とても嬉しい気持ちになりますね。

またお母さん同士の意見交流の場としてもぜひ利用してください。子どもとだけ向き合っていると成長に関して不安になることも、ここに来て解消できる時もあります。大切な子どもたちの健全な育成には、なくてはならない施設だと思います。



取材記

みらいセンターって子どもたちだけの場所じゃないんだよ。赤ちゃんのお母さんたちや地元の中高校生、おむかえに来たおじいちゃん...いろいろな年代の人に会えたのが、嬉しかったなあ。ここには遊具もたくさんあるし、マンガやビデオ、パソコンもあるんだよ。ボクの好きなものばかりだよ。今日は、今度はおとうもつれて来ようって。

自衛隊父兄会が発足

▶今後は親とかが協力して子どもたちを支援していく



能登町自衛隊父兄会発足協議会が12月11日、能登庁舎で行われました。これまで、自衛隊父兄会の活動が行われていなかった旧能登町、旧柳田村の自衛隊員父兄に対し、旧内浦町自衛隊父兄会会長の出島健二氏が発起人となり「町村合併が進んだ今こそ、父兄会活動を推進していきましょう」と提言し協議会の開催となりました。会議では、父兄会発足に向けた協議が行われ、平成18年4月より能登町自衛隊父兄会として活動していくことが承されました。

能登町からは、現在79人が自衛隊員として全国各地で活躍しています。

いざという時に備えて

▶救急法を学ぶことにより、あなたにも救える命があります



赤十字奉仕団の救命法講習会が11月30日に防災センターで行われ、奉仕団21人が心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の使用方法について学びました。能登町赤十字奉仕団の木挽委員長は、「救急時の心の備えを学びたい」とあいさつし、日赤石川県支部の講師3人から丁寧な指導を受けました。参加者は、もしもの時に慌てることのないよう一つの動作を理解しながら、真剣に講習を受けていました。

頭で分かっているにもかかわらず実際にできないことがあります。もしもの時に正しい処置ができるよう、みなさんも機会があれば救命講習を受けてみてください。

能都・柳田・内浦の3商工会が合併に調印

能登三郷商工会の合併調印式が12月9日、能登勤労者プラザで行われました。昨年6月に第1回合併協議会が開催されてから約6カ月の協議を経て、平成18年4月1日に「能登町商工会」が設立されることになりました。調印式では、数馬能都町商工会長、浜田内浦町商工会長、福池柳田村商工会長が合併契約書に署名捺印し、持木町長、永江県商工会連合会副会長が立会人として署名しました。調印後、数馬会長は「会員にとってすばらしい商工会となるよう、地域振興の中心となれるようがんばりたい」とあいさつしました。



▲合併契約書に署名捺印する3商工会長

お母さん今夜はブリ大根!?



▲鮮やかな包丁さばき!この季節の天然のブリは脂がのって最高です!捨てる場所がないといわれるブリは皮や胃袋などのなますも珍味とされています

宇出津港で水揚げされた寒ブリを味わってもらおうと12月4日、宇出津新町通り特設会場で「いきいき能登ぶりまつり」が開催されました。会場には約300人が訪れ、いしりを使った団子汁が無料で振る舞われたほか、海鮮焼きコーナーが設けられました。この日水揚げされた10kg前後のブリ16本が会場に届けられると、商店街の魚屋さんの手により観客の前であっという間にさばれました。通常の3割引ほどの値札がつけられた刺身などは、約1時間で完売しました。みなさんの家庭では、どんなブリ料理が食卓を飾ったのでしょうか?

柳田盆友会に地域づくり奨励賞

▲表彰状を受け取る柳田盆友会の木副会長



金沢市の県女性センターで11月26日に開催された石川地域づくり表彰で、柳田盆友会が奨励賞を受賞しました。この地域づくり表彰は平成9年から隔年で実施されており、今回は27団体の中から「大賞」「優秀賞」など3つの賞に10団体が選ばれています。

柳田盆友会は、「のとクリシマツツジ」を地域資源として着目し、金沢市や能登空港などでの展示会を重ねており、昨年は奥能登各地の愛好家による地域おこしのネットワークを構築しました。また、この花のルーツを探る活動が韓国との交流に発展するなど、スケールの大きな活動を展開しています。

ようこそ影絵の世界へ!

▲会場に集まったみんなも影絵に挑戦、何に見えるかな?



劇団かかし座の影絵劇「お星さまの色えんぴつ・ねずみのとうさんアナトール」が12月18日、内浦福祉センターで開催されました。この催しは能登町子ども会連合会子ども大会として開かれたもので、6色のペンライトやささまざまな色のセロハンを使った幻想的な影絵が上映されました。ギターやストリートオルガンの音色に合わせ、白鳥やカエル、フクロウなどを表現したり、ねずみを主人公にした物語などが披露され、会場に集まった子どもたちを楽しませていました。出演者とふれあえるコーナーもあり、会場内は外の雪景色とは対照的に、あたたかい空気に包まれました。

斉和地区に最新鋭の小型動力ポンプ付積載車を配備

上町分団斉和部に小型動力ポンプ付積載車が配備されることになり、12月10日に中齊の八幡神社で入魂式が行われました。旧車両の老朽化により配備された新型車両は、車両に小型動力ポンプを積載し、少人数でも迅速な放水が可能となっており、県内では唯一の配備とのこと。車両の引き渡しを受けた上町分団長の橋本渡さんは「これを機に消防人としての意識をさらに高め、住民の期待に沿えるよう努力します」とあいさつしました。式終了後、初放水が行われ、ポンプ車にも劣らないその能力を披露しました。



▲お破いを受ける消防車。積載される小型ポンプは単体でも放水が可能となっている